

V 学校研究

1. 研究主題

『自らの問いをもち、考え、挑み続ける児童の育成』
～生活・総合を核とした他者とつながり自らを高めていく授業実践を通して～

2. 研究主題及び副題の設定について

昨年度は、研究主題を『やりたい！やり遂げたい！がつながる授業』、副題を「一人ひとりが主役の学びを目指して」とし、総合的な学習の時間や生活科を中心に、学校研究を進めてきた。「児童の学びを支える環境づくり」や「学びをつなげていくための手立て」の2つの重点を設定し、共通理解、共通実践を図ってきた。

その中でも、児童が単元の導入で「やりたい！」と感じ、主体的に学びを進めるための工夫について研究を進めてきた。地域教材・地域人材を意図的に活用した単元計画、児童のつまづきをいかした適切な発問や教材準備によって、学ぶ意欲を最後までつなげていこうとしてきた。

また、自分たちで解決するための協働的な学びを進めるため、教師が意図的に「つなげる」場面を設定した。児童が必要感のある場面で話し合いを行い、「自分たちでできた」という効力感を高めることができた。

しかし一方で、どうしても教師に頼りがちになり、主体的に学びのサイクルを回せないという課題も見えてきている。この解決のためには、数値化できない力である「自分と向き合う力」、「自分を高めようとする力」、「他者とつながる力」という非認知能力の育成を欠かすことはできない。

そこで、今年度は、研究主題を「自らの問いをもち、考え、挑み続ける児童」、副題を「生活科・総合的な学習を核とした、他者とつながりながら自らを高めていく子の育成」と設定した。将来、正解のない未知の課題に向き合わなくてはいけない子ども達には、他の人たちとつながりながら協力して考え、進んでいくことが必要である。だからこそ、今年度も児童一人ひとりが自分事として課題を考え、自ら粘り強く学んでいく姿を目指していきたい。

3. 目指す児童の姿

予測困難なこれからの時代を、幸せに生きていくために

自分と向き合う子「ふかん力」

…問題に対する自分の理解度を正しく把握し、学習計画を順序だてて実行すること

自分を高める子「向上心」

…苦手なことにも、失敗を恐れず自分の成長のために挑戦すること

他者とつながる子「相互理解」

…意思疎通を図り、自ら声をかけ、他者を巻き込んだり、心を開いて他者に入り込んだりしていくこと

4. 研究内容

(1) 見通しをもった単元計画（「ふかん力」の育成）

児童が自律的に問いをもち、探究し続けるための単元デザインを推進する。

- 子どもの意見を反映させた学習活動： 指導計画を固定化せず、活動の過程で児童の興味・関心や切実な疑問を柔軟に反映させた学習活動を構成する。
- 視点と目指す姿の共通理解（共有）： 各教科等の「見方・考え方」といった視点を共通理解し、解決すべき課題の方向性を教師と児童で共有する。あわせて、単元終末に「どのような自分でありたいか」という目指す姿を共通理解することで、学習の目的意識を高める。
- 探求をつなげる学びの構築： 既習の知識や生活経験を新しい課題の解決へと結び付け、自分の学びをつなげていくことができるような単元計画を構築する。

(2) 自分の学びを確かにするふりかえり（「ふかん力」「向上心」の育成）

探究の過程で得た知識や気づきを構造化し、自律的な学びへとつなげるリフレクションを充実させる。

- 言語化によるアウトプットと表現： 体験や調査で得た情報を整理・分析し、言語化してまとめたり発表したりする活動を重視する。学んだことを自分の言葉でアウトプットする過程を通して、自分の言葉で表現する力を養い、理解を確かなものにする。
- 対話を通した学びの再構築： 友達や地域の人々との対話により多角的な視点に触れ、一人では到達できない納得解へと自らの考えを更新する。
- 学びを確かなものにするふりかえり： 自分自身の学びをより確かなものにするために、学習過程の節目で自分の言葉でふりかえりを書く場面を設定し、自己の変容を自覚し、次の意欲を引き出す。

(3) 児童の学びを支える環境づくり（「向上心」「相互理解」の育成）

児童の「問い」を誘発し、探究を継続させるための人的・物的環境を組織的に整備する。

- 地域リソースの最適化： 地域人材の活用、地域教材の発掘に全教員で努める。ゲストティーチャーとの打ち合わせを密に行い、学習のねらいを共有することで、子どもの興味関心が続くような教材や人材の活用を実現する。
- 学びの質の共通確認： 学び集会を定期的開催し、目指す学びの姿や学習の作法を全校で共通確認する。学校全体で「学び方」の視点を揃えることで、児童が安心して探究に没頭できる環境を構築する。
- ICT を活用した探究プロセスの充実： タブレット型端末等を、情報の収集・表現・発信の各過程で効果的に活用する環境を整える。デジタル機器による効率的な情報の収集・蓄積、思考ツール等を用いた論理的な考えの構築と表現を推進する。クラウドを通じた成果の発信と、相互の見合いや助言を基に自らの学びを更新し続けるサイクルを構築する。

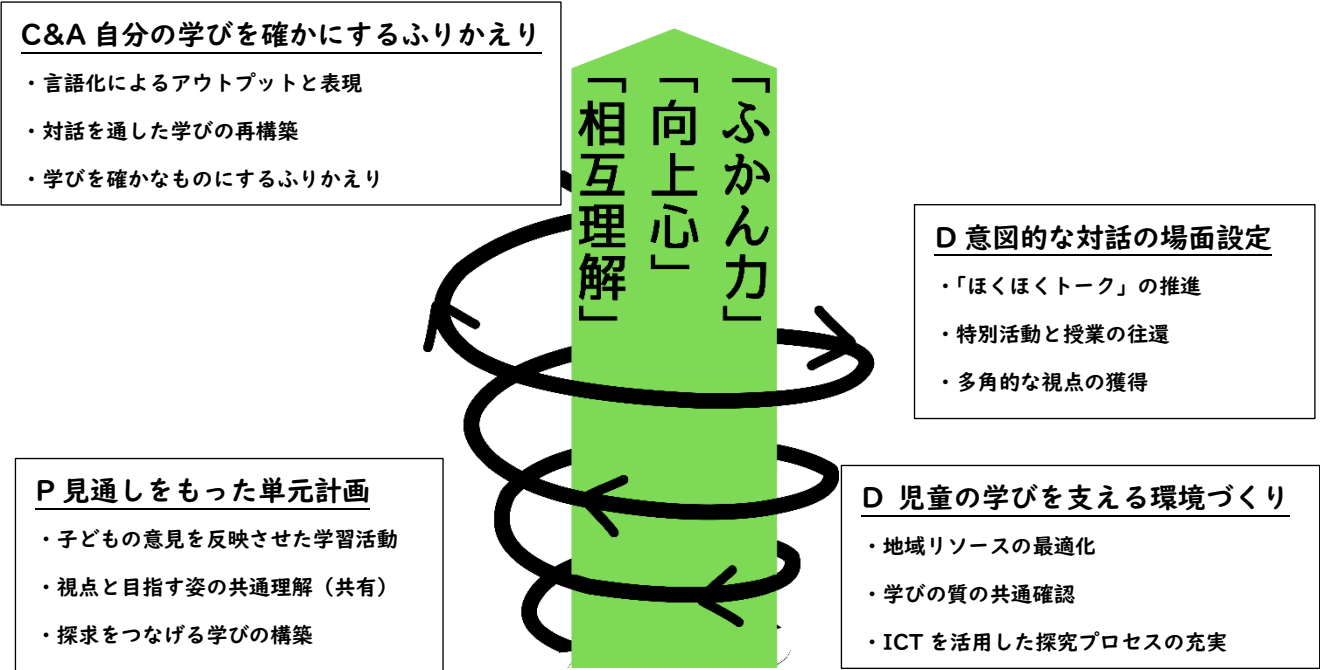
(4) 意図的な対話の場面設定（「相互理解」の育成）

他者との相互作用を通して自己の考えを広げ、深めるための対話活動を、教育活動全体に位置付ける。

- 「ほくほくトーク」の推進： 湖北小学校独自の対話活動である「ほくほくトーク」を軸に、日常的なコミュニケーションの質を高める。相手の立場に立った思いやりのある聞き方や、自他を尊重した伝え方の定着を図る。

- 特別活動と授業の往還： 学校行事や委員会、児童会での活動を、自分たちの課題を自分たちで解決する実践の場とする。そこで培われた意思決定や合意形成の力を、普段の授業の中での意図的な対話へとつなげる。
- 多角的な視点の獲得： ペアやグループ活動において、異なる意見を比較・分類・関連付けるといった「意図的な対話場面」を設計し、一人では到達できない納得解を導き出す姿を目指す。

3つの力で自分を更新し続ける探求のサイクル



3. 研究構想図

学校教育目標 自ら人生を切り拓き、共に創り、心豊かに生きる子の育成

研究主題 『自らの問いをもち、考え、挑み続ける児童の育成』

～生活・総合を核とした他者をつながり自らを高めていく授業実践を通して～

目指す児童像

予測困難なこれからの時代を、幸せに生きていくために

自分と向き合う子・自分を高める子・他者をつながる子

知識・技能

課題解決に必要な学び方を身に付け、探究的な学習の良さを理解できる。

思考・判断・表現

探究的な学習における児童の姿に沿って学ぶことができる。

問い、課題 → 情報収集 →
整理・分析 → まとめ・表現

主体性・自己調整力

互いのよさを生かして、対話を通して学び、自らの学びを振り返りながら、よりよく社会に関わろうとする。

研究の重点 「ふかん力」「向上心」「相互理解」の育成

見通しをもった単元計画

- ・子どもの意見を反映させた学習活動
- ・視点と目指す姿の共通理解(共有)
- ・探求をつなげる学びの構築

自分の学びを確かにするふりかえり

- ・言語化によるアウトプットと表現
- ・対話を通じた学びの再構築
- ・学びを確かなものにするふりかえり

児童の学びを支える環境づくり

- ・地域リソースの最適化
- ・学びの質の共通確認
- ・ICTを活用した探究プロセスの充実

意図的な対話の場面設定

- ・「ほくほくトーク」の推進
- ・特別活動と授業の往還
- ・多角的な視点の獲得

横断的・総合的な学習

教科における資質・能力の育成

学習の基盤となる資質・能力の育成

言語能力

情報活用能力

問題発見・解決能力

安心して対話できる温かい人間関係

- ① 「本気でチャレンジ」の学級目標、個人目標
- ② 「ほくほくトーク」を活用した安心して学び合える集団作り
- ③ 「分からない」「困った」「助けて」「ありがとう」が言える人間関係づくり
- ④ 「相手のことを知りたい、自分のことを伝えたい」という積極的にかかわり合う対話場面